

令和7年度島根県立大東高等学校

# 学校評価

令和8年2月24日（火）

教育目標	未来の創り手となるために必要な「人間力・学力・社会力」を身につけ活力ある地域・社会づくりに貢献できる人材を育成する								
重点目標	(1)個性と多様性を尊重する人権意識を持ち、お互いが成長していける人間関係づくり、集団づくり、学校づくりに努める ・人権教育の推進 ・規範意識の向上 ・生徒理解と組織的な支援 ・生徒活動の活性化 ・生徒活躍場面の創出 ・部活動、生徒会活動等で積極的な中高連携、地域連携								
担当	目標達成のための方策	学校評価質問項目 (評価項目)	肯定的 評価 %	生 保 教	評価	(自己評価) 概評と改善策	学校運営協議会評価		
							評価	評価	コメント
総務	学校行事の計画、立案を迅速に行うと共に、他の分掌や学年会との調整を図りながら学校として円滑に運営できるようにする。	防災避難訓練は、実際に災害が発生した際に役立つと思いますか。(生17)  オープンスクール・部活動等により、中学校との交流や連携を進め、学校の魅力を高めることにつながっているか。(教10)	96.7(95.2) - - 100(100)		A	・オープンスクールでは多くの先生方のご協力を賜わるとともに、PTAをはじめ生徒会や多くの部活動生徒の協力のもとで実施することができた。その御蔭で、活動目的である本校の魅力発信に寄与することができた。 ・また、防災避難訓練では、実際の災害場面を想定しながら円滑な避難を実施することができた。今後も、火災以外の災害を想定して避難訓練を実施していきたい。	A		①オープンスクールの企画運営は極めて重要であり今後も学校地域との連携の中でより充実していただきたい。 ②部活動連携では男子バレー部、クリエイティ部等大変お世話になった。オープンスクールは近隣中学校との行事予定を擦り合わせ適切な時期に設定していきたい。 ③地域の方々をはじめ多くの方々に大東高校の特色や魅力を知ってもらえるよう学校から発信を充実させて欲しい。 ④オープンスクールについて実施後のアンケート分析や、入学生向けにアンケートを取るなど参加者や入学者の評価や決め手を得ることが必要である。 ⑤中高連携がオープンスクールへの参加率向上につながっているのか検証が必要。
生徒	中高連携や地域活動へ積極的に参加するなど、生徒の諸活動を活発に行う。(挨拶、美化、部活動、ボランティア活動等)  人権教育についての教員研修を行い、共通理解を図るとともに指導力の向上に繋げる。	織部祭や球技大会、遠足などの行事、日々の部活動は高校生活を充実させるものとなっていますか。(生11 教8)  本校の生徒会活動は活発に行われていますか。(生9)  清掃活動はきちんと行われているか。(教12)  部活動は生徒・保護者の意見を反映したものになっているか。(教15)  人格形成の場として部活動が活発に行われていますか。(生10 保15 教16)  一人ひとりの生徒を大切に教育が行われていますか。(生16 保13 教14)	99.2(98.9) - 95.4(100) 81.3(85.0) - - 59.1(70.4) - - 81.8(85.2) 88.7(90.3) 79.1(75.4) 86.3(88.9) 93.5(91.5) 73.5(70.5) 90.9(88.9) 91.8(78.1) - 68.1(77.8) 94.4(87.2) 81.0(76.0) 90.9(88.9)		A	・学校行事等については、生徒が主体的に取り組むことができた。特に、3年生は責任感を持って、リーダーシップを発揮することができた。生徒数が減少する中で、生徒一人ひとりの負担が増えるため、行事の内容の再考していく必要がある。 ・生徒会活動については、計画的に円滑に実施することができた。それぞれの生徒に役割を持たせ、充実した活動を行うことができた。さらに、活発に情報発信をしていきたい。 ・清掃活動については、生徒数の減少に伴い、少ない人数で分担し実施せざるを得ない部分があり、手の行き届かないところもあった。先生方には、複数の清掃箇所の監督など、無理をお願いすることになるが協力をお願いしたい。 ・部活動の運営については、各部活動とも定期的に保護者会等の会合を実施し、保護者と連携を取りながら運営することができている。生徒一人ひとりに役割を持たせ、充実した活発な部活動運営ができるような環境を作っていきたい。 ・昨年度からの課題であった身だしなみについて、今年度は身だしなみ検査を実施した。また、服装規定や制服のデザインの見直しを行い、来年度は、全教職員が共通認識のもと指導ができる体制を構築したい。 ・生活アンケートやいじめについてのアンケートについて、各担任の先生方に協力いただき感謝している。学校全体として、いじめを許さず、すぐに誰にでも相談できる環境を整えていきたい。 ・人権教育は、スマイリーキクチさんの講演会など、学校全体で考える機会を持つことができた。また、各クラスでHRや人権だよりを通じで他者の考えや意見を共有し、尊重することに取り組むことができた。 ・今後は人権教育実践モデル校として、本校の取り組みをまとめていきたい。	A	A	①3年生は進路選択の重要な時期にも関わらず学校行事等でリーダーシップを発揮しているのは素晴らしい。 ②清掃活動の評価が低い現状困難である場合は業務委託可能かどうかや、そもそもの設定も含め検討が必要か。 ③先生方や生徒の皆様の努力で部活動が充実していることを高く評価したい。更に高校部活動の地域展開(地域の指導者の活用)を進めていくことが先生方の働き方改革にもつながるのではないか。 ④制服の見直しは高校魅力化につながる一つの視点である。着こなしも含めぜひ生徒会の皆さんと先生方もしくは専門家の助言で実行していただきたい。 ⑤アンケート結果から人権教育実践モデル校としての成果を感じる先生方のご指導の成果と考える。 ⑥いじめの実態は把握していないが大東高校は人間味のある温かな学校であると外部から感じている。 ⑦生徒指導では教職員の皆様の頑張りに感謝している。中学校でも清掃への取組みには課題を感じている。継続指導を行い高校へつなげたい。 ⑧生徒主体の行事については生徒数減少の中、運営が困難な場面もあるかと察しますが、織部祭、球技大会等はいつまでも記憶に残る大事な行事です。マイナスの方向に向かないよう実施方法や場所など再考し、継続をお願いしたい。 ⑨部活動は生徒数が少ないが各部非常に頑張っている。体育系・文化系と競技は違えども連携を強化することにより、チーム大東高校として相乗効果が得られると感じた。 ⑩人権指定校としての活動はPTA役員を中心に積極的に取り組みを行いました。 ⑪全体的に生徒に比べて保護者の評価が低い。保護者の理解を得るべく情報の共有・発信等が適切かつ丁寧に行われているかの検証が求められる。

進路	個別面談、進路希望調査、進路検討会等を通して、生徒の実態把握に努めるとともに、教職員の共通理解を図る。	先生との面談は、自分の生活を顧みる機会となり、新たな目標達成の場となりましたか。(生 15 保 10)	98.3(91.4) 89.2(88.4) -	A	・各学年部による進路希望調査、3年進路検討会、1,2年生文理・コース選択検討会などで生徒個々の実態把握に努め、教職員間の共通理解を図ったことが個別面談の高評価につながったと考えている。また、就職、公務員希望者に対する面接、作文指導や国立大学の総合型、学校推薦型入試の面接、小論文指導についても組織的に指導できたと思う。	A	<p>①近年の島根大学、島根県立大学の合格率の高さは大いに評価すべきであり諸先生方の懇切丁寧なご指導の賜物であると思う。また、公務員試験に対するご努力も高く評価したい。</p> <p>②どんな子どもを育てるか。学力が足りない生徒をどう受け入れ育てていくか。中学校も学力を着けさせないといけない。</p> <p>③きめ細かいご指導でそれぞれの生徒が希望している進路に進むことが出来ている。一方で、保護者へのこまめな情報提供、共有が今後必要と考える。</p>	
		本校では生徒理解に基づいた組織的な対応が行われていると思いますか。(保 14 教 14)	- 70.9(62.8) 90.9(88.9)					
1年部	人権教育、HR活動、学校行事等を通して自他を尊重する心を育て、互いに支え合う人間関係を構築させる。	人権教育(HR等)によって人権意識は高まりましたか。(生 13 保 12 教 11)	84.8(93.5) 69.6(73.5) 90.9(88.9)	A	今年度は雲南地域以外からの生徒も増え、学年全体の1/3は雲南地域以外の生徒になった。また、共同下宿もスタートし寝食を共にする生徒もいる。このことにより、例年より多様な価値観に触れる機会が増えた。このような状況の中でも人間関係においては周囲を気遣ったり、互いに助け合ったりする場面が見られた。一方では相手の思いや考えを汲みとることができず、人間関係のトラブルが起きることもあった。人権意識とは何かを改めて生徒とともに考え、あらゆる場面で自他を尊重する心を育て、互いに支えあうことのできる関係性の構築を図りたい。	A		<p>①学校の自己評価にもあるように雲南市外からの生徒が増える中、様々な価値観の違いの中で生徒が成長していて危険のない範囲内でのトラブルは生徒同士の解決が力になる。保護者の人権教育に関する評価は昨年度より低いがどれだけ実態を把握されているか疑問が残る。</p> <p>②高校での学びの接続として実施しておられる「学びの花プロジェクト」を継続して欲しい。</p> <p>③1.2.3年部合わせてコメントします。</p> <p>大東高校初の共同下宿の受け入れが始まり県内外から今までとは違う生徒構成でスタートしました。しかし、共同下宿やグラウンドがどのような状況で運用されているのか中間報告がなかったことは残念でした。県外から覚悟を持って来てくれた生徒の成長の手助けを引き続き願いたい。</p>
2年部	人権教育や総探、学校行事等を通して確かな人権感覚を身につけ、礼節ある態度、マナーやルールの順守など規範意識の向上を図り、豊かな人間関係を構築させる。	人権教育(HR等)によって人権意識は高まりましたか。(生 13 保 12 教 11)	96.3(93.5) 76.8(73.5) 90.9(88.9)	B	あらゆる学校生活の中で助け合ったり相手を思いやったりする行動が多く見られ、成長が感じられた。人権HRや学園祭での講演など学校行事を通して学んだことが生かされていた。まだ指導を必要とする様子も見受けられるので、今後も人権意識が高まるような環境づくりや規範意識の向上を目指した指導を継続したい。	B		①何よりも評価が高いことに成果を感じる。授業以外での人権教育の視点はとても大切だと感じている。
3年部	生徒の実態に即した人権教育 HR を実践し、確かな人権感覚を培うとともに、円滑な集団生活のためのふるまいを向上させる。	人権教育(HR等)によって人権意識は高まりましたか。(生 13 保 12 教 11)	100(93.5) 76.1(73.5) 90.9(88.9)	A	3年生となり学園祭、人権教育 HR、その他の活動を通してこれまで以上に様々な経験を積むことができた。昨年度に続き、今年度も諸活動のなかで周囲を気遣ったり、互いに助け合ったりする場面が見られた。今年度は特に学園祭等で成長を感じることができた。	A		<p>①学校行事は自己有用感、自尊感情、達成感、他との協調性など自己を高める成長させる場所です。今後も大切にしていきたい。</p> <p>②進学もだが3年間の高校生活の満足度が評価100%から伺える。3年間学びどう人間力の視点では成長できていると感じる。</p>

\* 「評価」欄の基準は肯定的評価の% : A=80%以上 B=65~79% C=50~64% D=50%未満

\* ( ) 内は昨年度の肯定的評価の%である。ただし、各学年部の生徒、保護者の肯定的評価の%は、各学年ごとに集計した数値であり、( ) 内は学校全体の肯定的評価の%を示している。

教育目標	未来の創り手となるために必要な「人間力・学力・社会力」を身につけ活力ある地域・社会づくりに貢献できる人材を育成する								
重点目標	(2)考える授業、自分の考えを表現する授業、学びあう授業を展開する ・間違いや失敗を恐れない学び合い ・授業公開、アンケート、研修実施による授業改善と授業力向上 ・DXハイスクール事業の推進 ・情報活用能力の育成 ・観点別評価の点検 ・指導と評価を一体化 (3)「確かな学力」の定着・伸長に努め、進路実現を支援する ・家庭学習と連動した授業デザイン ・基礎学力の向上 ・学び直しや個別最適な学びの実現 ・図書館の利活用								
担当	目標達成のための方策	学校評価質問項目 (評価項目)	肯定的 評価 %	生 保 教	評価	(自己評価) 概評と改善策	学校運営協議会評価		
							評価	評価	コメント
教務	授業公開や中学校との連携、他校視察を積極的に行い、ICT機器を効果的に活用して、主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びにつながる授業を展開するための研究を行える体制を作る。	ICTの効果的な活用や学び合いなどにより、授業の質は充実していますか。 (生2 保2 教2)	91.9(88.2) 66.5(68.3) 100(88.9)		A	・「ICT活用と自己選択の視点」を授業改善のテーマに掲げ、全教員による授業公開を実施し、各教科で特色ある授業を行った。併せて、生成AI(Gemini、NotebookLM等)やVRゴーグル、momobo等のICT機器を活用した授業実践を進め、全生徒が生成AIを活用できる環境を整えた。一方で、取組内容の理解が不十分な保護者も一定数見られたため、今後は広報の充実を図る。	A	A	①積極的な授業公開を実施され参観する機会がありましたが生徒の皆さんと指導される先生方の距離感がとても近く楽しい授業が展開されていると感じた。ある中学生が「大東高校にはスーパーパソコンがある。だから大東高校を受験する」という声を聞きました。これまでのDXハイスクール事業で取組みの成果だと思います。 ②図書館利用の様々な取組の成果を高く評価します。生徒の皆さんの図書館利用の発想の転換を更に求めます ③どんな子どもを育てるか。小中高のつながりの中で学力を着実に伸ばすことにあわせて、非認知的な能力を高めることも重要である。 ④ICT機器の活用していく年度であったと解釈しています。アプリケーションの作成や、部活動でのデータ取りなどが出来れば楽しく学べるのでは。 ⑤昨年度に比べ中高連携が少なかった様に思う。R6は中学校の数学授業に高校の先生に来ていただいた。大東高生による中学生への授業も実施していた。来年度も計画的に行っていきたい。 ⑥図書館で昼食を取れることになったことはよい試みであると思います。しかし、教室から離れているという面から訪れる子は限定的となっているのでは。 ⑦教室周辺の空き教室をフリースペースにして電子レンジやポットを備え昼食がとれるような場所を作って欲しい。 ⑧図書館の利活用は成果が出ているので引き続き取り組みを進めていって欲しい。
	教科主任者会や校内研修会で評価方法の研究をさらに進める。また、授業アンケート等を通して、生徒に授業の振り返りをさせることにより、授業改善につなげるというPDCAサイクルを確立させる。	授業は、自分の興味関心を高め、学力を向上させるものになっていますか。 (生1 保1 教1)	91.9(92.5) 78.5(79.8) 95.5(92.6)		A	・授業アンケートについては集計の迅速化を図り、教員へのフィードバックを速やかに行った。また、集計結果が分かりやすくなるよう工夫することで、教員が自身の指導方法を振り返るとともに、生徒の学習意欲を高め、生徒自身が学習を振り返る機会ともなっている。 ・家庭学習時間調査を年間5回実施し、職員会議等を通じて、各教科に調査結果を迅速にフィードバックした。今後は教科主任会を通して、生徒の自律的な学習につながるよう、各教科での具体的な手立てを検討・実施していく方針である。 ・図書館の集計データによると、一人当たりの貸出冊数は過去5年間で2番目に高い数値であり、年間を通じると1番多くなりそうである。授業や総合的な探究の時間での活用に加え、オンラインで蔵書検索ができる「カーリル」を導入したことで、貸出数の増加につながった。また、学園祭での図書館祭りやクリスマスコンサートでは、地域の方々や大学生と連携したイベントを実施した。さらに、昼休みに図書館で昼食をとることができる「リブカフェ」を試験的に実施したところ、生徒から好評であったため、今後も継続的に図書館を開放していく。			
	各教科や学年会と連携し、学習時間調査の回数を増やしたり、自ら進んで学習に向かうことができる仕掛け、課題の出し方等を検討する。	1時間の授業が充実したものになるよう、課題や予習・復習など、計画的に家庭学習に取り組むことができましたか。(生4 保4 教3)	81.3(77.0) 58.3(59.0) 54.5(37.0)		B				
	読書週間を設定し、全員で読書をする習慣をつくる。また、探究学習や進路学習を中心に図書館を利用した授業を依頼したり、図書委員会でイベントを企画する。	読書量や図書館利用は増えましたか。 (生3)	30.1(69.5) - -		A				
1年部	遅刻の防止、清掃の徹底、挨拶の励行に力を入れ、規律ある生活環境を整え、学習習慣の確立にもつなげる。	先生との面談は、自分の生活を顧みる機会となり、新たな目標設定の場となりましたか。(生15 保10)	95.6(98.3) 89.9(89.2) -		B	面談は非常に有用であり、年間を通して、短くとも、頻繁にできたことが生徒との関係性の構築および生徒の基本的な生活習慣の確立に役立っていると感じる。あいさつは自分からすること、身なり服装は全体指導もあり、その場ですぐに指導をすることをテーマとして先生方と共有することが大切だと感じている。一方で、学習習慣については、生徒によって取り組みに差があると感じており、根気強く声掛けをすることが必要である。今年度は、主体的に学習に取り組むことを目的としてClassiを試行したが、取り組みに差がある。取り組んでいる生徒は少しずつ学習習慣が確立され、学習時間も伸び、学習内容も定着している。このことから、主体的に取り組もうとする仕掛けづくりが必要である。また、自分の予定を管理することが苦手であり、手帳を使った管理も長続きしない。一人ひとりに細かく対応する時間もとれない状況の中でよい活用法を考える必要がある。	B	①学校の自己評価にあるように面談はとても大切な時間だと思います。先生方の声掛けで生徒が変容する貴重な教育場面だと思います。面談を重視されていることに高く評価します。 ②学びへの取組みは個々の自覚しかないように思います。なぜ、学びがひつようか、個々人が考えるとともに保護者の皆様のコーチングの意識の高まりを期待します。 ③1.2.3年部合わせてのコメントです。 数年前に比べると中学生、高校生の町中で出会った時にあいさつをしない生徒の方が多いように見受けられる。あいさつに関して質が落ちている。 ④将来何をしたいのか目的のない生徒が年々増えてきている。特にそのような生徒には、ヒトとの出会いやホンモノに触れる機会など積極的な働きかけにより動機付けしていくことが必要と感じる。	
		お子さんは、学校のルールがきちんと守られていますか。 (保6)	- 92.8(91.1) -						
		1時間の授業が充実したものになるよう、課題や予習・復習など、計画的に家庭学習に取り組むことができましたか。(生4 保3 教3)	76.1(81.3) 62.3(63.3) 54.5(37.0)						
		手帳「カルデアの牧人」やクロームブック(Classi、生徒用ポータルサイト等)を利活用し、日々の予定の管理や振り返りができましたか。(生6)	58.7(58.5) - -						

2 年部	授業や行事等に目標を持って取り組み、間違いや失敗も糧にしながら協力してゴールを目指す集団作りを行う。	先生との面談は、自分の生活を顧みる機会となり、新たな目標設定の場となりましたか。(生 15 保 10)	100 (98.3) 88.4 (89.2) -	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査後のみならず随時面談を実施した。生徒の状況把握や不安解消に効果があった。</li> <li>・学校のルール順守については、大きな違反はなく保護者の評価も高い。一方で制服の着こなしについては指導に苦慮している。学年集会を行ったり、生徒の現状や学校の取り組みを学年だよりを通して保護者へ伝えたりした。保護者も困難を感じている部分があり、今後も連携して指導を行いたい。</li> <li>・家庭学習時間の少なさは一番の課題である。4月56分、5月88分、9月66分、11月55分と低迷している。試験前のみならず平日2時間の取り組みができるよう、3年生へ向けて様々なアプローチを試みたい。</li> <li>・予定の管理が日常化している生徒は少なく、それが忘れ物や課題の提出状況に直結していると思われる。一人ひとりの進路実現と結び付け、各自が予定管理できるよう意識付けしていきたい。</li> </ul>	B	<p>①家庭学習の課題については上述した通りですが、個人の自覚と目的意識を明確にする為に外部講師や地域の人々との関わりの中で生き方を学ぶ機会等を設定することも一策かと思われます。</p> <p>②生徒会の生徒が学校を引っ張っていく様子が見られなかった。応援イベント活動に取り組む意思のある生徒を募っていくことを今後考える必要があるのでは。</p>
		お子さんは、学校のルールがきちんと守られていますか。(保 6)	- 88.3 (91.1) -				
		1時間の授業が充実したものになるよう、課題や予習・復習など、計画的に家庭学習に取り組むことができましたか。(生 4 保 3 教 3)	77.8 (81.3) 55.8 (63.3) 54.5 (37.0)				
		手帳「カルデアの牧人」やクロームブック(Classi、生徒用ポータルサイト等)を活用し、日々の予定の管理や振り返りができましたか。(生 6)	44.4 (58.5) - -				
3 年部	授業・学校行事・生徒会活動・部活動等に主体的に取り組ませ、様々な場面で間違いや失敗を恐れず学び合い、挑戦する集団作りを行う。	先生との面談は、自分の生活を顧みる機会となり、新たな目標設定の場となりましたか。(生 15 保 10)	100 (98.3) 89.1 (89.2) -	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事である学園祭をはじめとして進路実現に関する学びや活動においても、失敗を恐れず、学び合い挑戦する姿がみられた。様々な場面で前向きで主体的な姿勢が見られ、これまでと比べ、大きな成長が感じられた。</li> <li>・教室や廊下の整理・整頓、あいさつや清掃など学校での基本的な生活習慣が身に付いていた生徒が多数であったと感じている。ただ不十分な生徒もなかには見受けられた。</li> <li>・家庭学習時間の確保について、学習時間調査の結果、平均時間は6月はおおよそ200分、11月は185分であった。学年として、一日の家庭学習時間の目標(2時間)を満たしてはいたが、あくまでも学年の平均時間であり個人差が大きかったと感じている。目標時間を下回っている生徒には進路目標について面談をする際、家庭学習時間の確保についても話しをしながら意識付けをおこなった。</li> <li>・3年生はクロームブックを3年間使用し、かなり利活用が進んできたと感じている。ただ日々の予定の管理や振り返りのための利活用に関してはまだ不十分な点があったと感じている。その利活用については今後の検討課題である。</li> </ul>	B	<p>①様々な場面で前向きで主体的な姿勢が見られこれまでと比べ大きな成長が感じられたことは特筆すべき点であると思われます。</p> <p>②3年生の進路状況について知る機会がありましたが生徒数減の中でよく頑張っていると思います。生徒保護者が納得しながら進路選択を行い、先生方とともに実現に向かわれた成果と高く評価します。</p>
		お子さんは、学校のルールがきちんと守られていますか。(保 6)	- 91.3 (91.1) -				
		1時間の授業が充実したものになるよう、課題や予習・復習など、計画的に家庭学習に取り組むことができましたか。(生 4 保 3 教 3)	88.0 (81.3) 71.7 (63.3) 54.5 (37.0)				
		手帳「カルデアの牧人」やクロームブック(Classi、生徒用ポータルサイト等)を活用し、日々の予定の管理や振り返りができましたか。(生 8)	90.0 (58.5) - -				

\* 「評価」欄の基準は肯定的評価の% : A=80%以上 B=65~79% C=50~64% D=50%未満

\* ( ) 内は昨年度の肯定的評価の%である。ただし、各学年部の生徒、保護者の肯定的評価の%は、各学年ごとに集計した数値であり、( ) 内は学校全体の肯定的評価の%を示している。

教育目標		未来の創り手となるために必要な「人間力・学力・社会力」を身につけ活力ある地域・社会づくりに貢献できる人材を育成する									
重点目標		(4) 地域や大学等と連携することにより、体験機会を創出し、挑戦する生徒を支援する ・発表の機会の創出、表現力育成 ・総探×教科の学びの往還 ・地域資源の活用と関係機関との連携強化 ・島根県立大学との連携強化									
担当	目標達成のための方策	学校評価質問項目 (評価項目)	肯定的 評価 %	生 保 教	評価	(自己評価) 概評と改善策	学校運営協議会評価				
							評価	評価	コメント		
総務	報道機関への投げ込み、ホームページ、Facebook、Instagram、各種広報誌等を通して、教育活動の様子や成果を情報発信する。	ホームページやFacebook、Instagram、学校便り、緊急メール等により、学校の様子が伝わっていますか。 (生 12 保 11 教 9)	92.7 (93.6)		A	ホームページの迅速な更新を心掛け、学校生活の様子を素早く伝えることができた。また、学校便り「おりべ通信」を発行し、学校での教育活動の様子を地域社会に分かりやすく伝えることで、大東高校の魅力発信につながったと考える。さらに、今年度から導入された「さくら連絡網」についても、保護者や生徒に対して確実に連絡できる特性を生かして、緊急連絡だけではなくアンケート調査等にも活用するなど大きな役割を果たした。	A		①情報発信へのご努力を高く評価します。マスコミ等への対応も迅速であり新聞記事で大東高校生の活躍の姿を拝見しました。 ②学校HPの内容が年々充実してきており、分かりやすかった。今後は、さくらメールの活用方法を検討いただき、保護者あての文書も配信を検討いただきたい。		
	学校便りを全保護者、地域へ配布する。また、近隣小中学校等への送付、各種の学校イベント等でも配布することで、学校の魅力を伝える。		89.3 (86.8)							100 (100)	
教務	学年会への参加や年間計画作成、指導案の共有等を通じて探究活動の支援を行い、「総探」の学びと「教科」の学びの往還を目指す。	「総合的な探究の時間」に主体的に取り組み、1年生は自己理解・他者理解を深めることができましたか2年生は地域課題について学びを深めることができましたか。3年生は自己実現に向けての学びを深めることができましたか。 (生 5 保 5 教 4)	95.9 (92.0)		A	・総合的な探究の時間では、1年生は自己理解を深める活動や地域の方を招いたゲストトークを通じて、自身の適性や興味・関心を整理し、キャリア意識を高めることができた。一方で、活動内容が保護者に十分伝わっていないため、情報発信の工夫が今後の課題である。 ・2年生は、1学期に沖繩研修と連動した個人探究を行い、主体的なテーマ設定や情報収集の力を育んだ。2学期以降は地域課題解決型のグループプロジェクトを地域パートナーと連携して実施し、協働力や実践力の向上につなげることができた。ただし、地域パートナーとの連携や日程調整に課題があり、より円滑に実施できる体制の整備が求められる。 ・3年生では、教科横断的なチューター制による「教科往還的な学び」を試行し、教科知識と探究学習を統合する力を養った。成果は見られたものの、新しい取組であるため教員の負担が増加しており、負担軽減策や実施方法の改善が課題となっている。 ・全学年を通して、生徒の満足度は高く、主体的・自律的な学びの促進に一定の成果があったが、課題を踏まえ、来年度は活動内容の周知や教員負担の軽減を含め、総合的な探究の時間の在り方を再検討していく必要がある。	A		①総合的な探究の時間はまさに総合的な人間力の育成を目指すものであり多面的な学びの時間が全学年で成果が見られたことを高く評価します。また、全学年の探究学習の充実に対する財源の確保などについては、新たに創設された雲南市の補助金の活用あるいは八雲会等で今後協議する必要がある。 ②2年生の探究は制度の見直しが必要な時期にきているかもしれません。		
		「総合的な探究の時間」をはじめとする教育活動においては、地域人材等との連携・活用が図られているか。(教 5)	-							-	90.9 (100)
		学校は保護者や地域との連携を取りながら教育活動を行っていると思いますか。(保 7)	-							-	81.0 (77.6)
生徒	相談で得た情報を担任・SC等と共有を図り、迅速な対応・支援ができるように努める。	一人ひとりの生徒を大切に教育が行われていますか。 (生 16 保 13)	94.2 (87.2)		A	・生徒の悩みや相談内容は学習面だけでなく、友人関係や家庭環境、発達特性など多岐にわたっている。担任の先生だけで対応することは負担が大きいため学年・関係職員と情報共有を図った。状況に応じてSCやSSWと連携した支援体制の充実に努めた。 ・欠席傾向や学習面のつまづきを把握し、早期に対応できるようケース会議や支援委員会を通して共通理解を持って生徒支援を推進した。今後は早期対応や予防的支援にむけて情報共有体制の構築を目指し、年度や担任が変わっても生徒情報が共有できるようにしたい。	A		①アンケート結果から一人ひとりが大切にされている状況が理解できます。不登校傾向のある生徒さんや様々な困難を抱えている生徒さんにとって温かな支援をする環境づくりが大東高校の魅力化につながっていくことを期待します。		
		生徒理解に基づいた組織的な対応が行われていると思いますか。 (保 14 教 14)	-							70.9 (62.8)	90.9 (88.9)

進路	オープンキャンパスやおしプロなどの体験活動の情報を整理して生徒に示し、自主的な参加を促す。また、「進路の手引き」を通じて3年間を見通した進路活動を意識させる。	「進路の手引き」、進路ガイダンス、企業・大学等見学などを通しての進路指導は、自分の進路決定に役立っていますか。 (生7 保8 教6)	90.2(86.1) 83.5(77.5) 86.3(70.4)	B	<p>・オープンキャンパスの情報やおしプロ通信を進路のポータルサイトで生徒に示したり、看護体験の案内をしたりしたことで、生徒がさまざまな体験活動に積極的に参加してくれた。担任の先生方の紹介の仕方や後押しのおかげだと考えている。</p> <p>・キャリアパスポートについては、教員の評価が低いことから進路につながるための活用ができていないと考えられるので、まず続けて実施するかどうかということ、実施する場合は各学年部とともに効果的な方法を検討することが必要だと考える。</p> <p>・「進路の手引き」を用いて生徒に進路学習のスケジュールを把握させるとともに、進路ガイダンスや進路講演会等の行事を実施するなど、計画的な進路学習を全学年で実施したことで進路に対する意識が高まり、生徒一人ひとりの進路選択の一助となったと考えている。</p> <p>・1・2年進路見学会については、来年度島根県立大学出雲キャンパスは9～11月ほどの学校も受け入れない方針であることや島根大学も9月の数日のみ受け入れるということ、バス代がさらに高騰すること、限られた見学先では生徒のニーズに合わないことなどを考えて実施を取りやめようと考えている。その代わりに来年度は学部・学科別の進路ガイダンスを10月か11月に実施しようと考えている。</p>	B	<p>①県内外のオープンキャンパスへの参加はとても重要であり経費面との兼ね合いもありますがぜひ、継続充実させていただきたい。</p> <p>②1年次からオープンキャンパスへの関心を高める施策を考えていただきたい。個人の経済的な問題で出かけることが難しくならないよう工夫していただきたい。特に、県内の進学先を知る機会は低学年次からの指導が重要となると考えるので今後も継続できる方策を考えていただきたい。</p> <p>③島根大学、県立大学への見学中止は理解できます。卒業生が島大、県大に在学されているので定期的な学生、生徒間の交流等でカバーできると考えます。</p> <p>④入学時に3年間の進路ロードマップを提示し、希望進路達成までの工程を時系列で可視化したスケジュール表をイメージさせることも必要ではないか。定期的に途中で自身の進捗を確認しながら。また、保護者へも進路情報の提供の場や機会を設定いただきたい。</p>
	進路見学会や進路ガイダンス、進路講演会、保護者対象の講演会・説明会の実施や進路だよりにより、進路に関する情報発信を行う。	「進路の手引き」、進路ガイダンス、企業・大学等見学などを通しての進路指導は、自分の進路決定に役立っていますか。 (生7 保8)	90.2(86.1) 83.5(77.5) -				
	総合的な探究の時間や地域活動への参加を通して、様々な価値観に触れ、自分を見つめ、将来の生き方や進路について考えさせる。	探究活動やキャリアパスポートの利用などにより、さまざまな学びが自らの進路につながるきっかけとなっていますか。(生8 保9 教4)	86.9(86.2) 71.0(72.8) 59.1(81.0)				
2年部	総合的な探究の時間等の学習活動を通して視野を広げ、自分を客観的に見つめ、将来の生き方について深く考えさせる。	探究活動やキャリアパスポートの利用などにより、さまざまな学びが自らの進路につながるきっかけとなっていますか。(生8 保9 教4)	77.8(86.2) 79.1(67.4) 59.1(81.0)	A	<p>・1学期は沖縄研修旅行の事前学習として沖縄文化探究プログラムに取り組んだ。現地での学びがより一層深まり、日常の学校生活では体験できない学びを得ることができた。2学期は地域パートナー探究の取り組みを通して様々な職業や年齢の方と出会い、新たな価値観に触れ視野を広げる機会となった。一方で、パートナー探しが安易になったり、連絡の取り方等について指導が行き渡らなかったことがあり、今後の指導や外部機関との連携について再考すべき点が多々あった。キャリアパスポートは生徒が学期ごとの取り組みについて振り返ることができる機会となっている。その良さを生かしつつ、より有効な活用法がないかを模索していきたい。</p>	A	①1年生と2年生の発達段階に応じた探究学習であると思いますが2年間を通じた学びをより明確し、一貫した取組となっていく事を期待します。
3年部	進路希望調査、学習時間調査などの資料をもとに生徒・保護者面談を実施し、進路実現に必要な適切な支援を行う。	先生との面談は、自分の生活を顧みる機会となり、新たな目標設定の場となりましたか。(生15 保10)	100(98.3) 89.1(89.2) -	A	進路希望調査や学習時間調査の資料を使い、面談を定期的におこなった。また進路希望に応じて個別にきめ細かく面談をおこなった。日々の学校生活の振り返りや進路目標設定について一定の成果を上げていると考えている。	A	①これまでの成果を高く評価します。

\* 「評価」欄の基準は肯定的評価の%：A=80%以上 B=65～79% C=50～64% D=50%未満

\* ( )内は昨年度の肯定的評価の%である。ただし、各学年部の生徒、保護者の肯定的評価の%は、各学年ごとに集計した数値であり、( )内は学校全体の肯定的評価の%を示している。